

# 平成28年度の実践で見られる問題点

## 主に言語活動に関すること

- ① **付けたい力を付けるのに適切な言語活動と言えないものがある。**
  - ア 付けたい力と言語活動との領域のミスマッチが見られる単元
  - イ 主たる学習活動の設定時間数の不足した単元
  - ウ 言語活動の設定はあるが、課題解決のための手法が適切でない
- ② **教材の特性や活動の必然性を考慮しない言語活動がある。**
  - ア 意図のない、場面ごとの詳細な読解の実施
  - イ 関心・意欲を引き出す観点からその活動の必要性の吟味
  - ウ 児童生徒自身に気付かせることと教師が教えるべきことの整理

## 主に評価に関すること

- ① 評価規準が適正と言えない。
- ② 「C努力を要する状況」の児童生徒が見取りにくい。
- ③ ②のため、その子どもたちに対する指導・支援が未設定である
- ④ 本時の評価規準が具体的でない
  - ア 評価の場面は時間で1、2箇所
  - イ 単元、指導過程、本時の評価規準の整合がない。  
また、本時の評価規準、評価の方法や場面が、具体的でない。